

足摺岬 視察報告書

(高知県土佐清水市)

1 現場付近の状況

- ・飛び込み場所は、四国の最南端の半島に位置する海拔約 60 メートルの岩壁が太平洋側に突き出ている足摺岬灯台付近の約 50 メートル区域内の3箇所の岩場から飛び込みが発生している。
- ・入口は、県道に面した38番札所の寺を背にして幅員約2メートルあるジャングルの中の遊歩路を約 10 分間歩くと灯台に辿り着くが、途中に古びた茶屋一軒と、見晴台、電話ボックス一基があり、一周できる遊歩路には高さ約 1.5 メートルのコンクリート柵が張り巡らされており、自殺者はその柵を潜り抜けて飛び込む。
- ・昼間は観光客やお偏路さんで賑わうが、午後 5 時ころになると観光客は引き上げ、街灯一つ無い不気味な場所に変身する。
- ・最終バスは午後 6:00 ころで、バス亭付近にお土産屋が 4 軒あるだけである。

2 自殺防止対策

- ・遊歩路の周囲が柵で囲まれていた。

3 自治体の担当者談

- ・自殺する時間帯は、夜間は不気味でジャングルの中へは入れないため、日が開けた早朝に発生していると思われる。
- ・ここ 2~30 年前に年間 40 人程の自殺者がいたと聞いているが、当時、『救世軍総長』と呼ばれる牧師さんが「一寸待て」と書かれた看板を数本建てたと聞いているが、数年前にその看板を取り除いたため自殺者が減ったのではとの意見もある。
- ・また、自殺が減った理由として、他県に自殺の名所が公表されているため分散したのではとの意見もある。
- ・飛び込んで、黒潮にのり和歌山県まで流れて行ったり、岩にからまり発見されないことがある。

4 考察

- ・相当数の自殺志願者が全国から集まり、現場付近を徘徊していると思われたため、日没時間を中心とした約 1 時間のパトロールが必要と思われた。
- ・監視カメラの導入を検討すべきと思われた。
- ・自元民による自殺者が少ないため、該自治体による自殺防止意識が希薄であった。